

令和6年度 授業づくりシート

教科名		自立活動		2		学年	
単元名		「いろいろな動物にへんしん！」（リトミック）					
単元の目標		・曲に合わせて、様々な動きに取り組むことができる。 ・曲や教師の言葉かけて、動きを変えることができる。					
児童の実態		A 児		個人情報のため省略			
児童の個別目標		A 児		・やることを理解し、落ち着いて活動に参加することができる。 （環境の把握、心理的な安定） ・集団と一緒に時間いっぱい身体を動かすことに慣れる。 （人間関係の形成、身体の動き） ・リラックスする時間では、横になり身体を休めることができる。 （心理的な安定、環境の把握、身体の動き）			

○活動内容と具体的な手立て

活動内容	児童の予想される言動	具体的な手立て
・ 始めの挨拶、呼名 （A 児）	・ 気になるものに気を取られなければ着席することができる。 ・ 呼名に対してタッチで反応を示す。	・ 児童が入室する前に椅子を用意しておき、活動が始まる前に別のことに興味に移らないようにする。 ・ 軽く椅子を叩きながら、個別に着席を促す言葉かけをする。 ・ 呼名の際は目の前に移動し、タッチができるよう手を差し出す。
・ 手遊び歌	・ 模倣が難しく、脱力したり離席したりする。 ・ 教師とのふれあいを楽しむことができる。	・ S Tが斜め後ろに座り、手遊び歌に合わせてA 児の顔や身体の近くで振り付けをしたりふれあったりする。
・ リトミック	・ サイドステップやジャンプをしながら室内を大きく移動する。 ・ 模倣への意識が薄く、自由に動き続ける。	・ 細かく動きの正誤を指摘せず、自発的に身体を動かしていることを称賛する。 ・ ジャンプする動きのときは両手をとって「ぴよんぴよん」と言葉かけをしながら正面で手本を示す。 ・ 四つ這いの動きのときは、膝部分を手で優しく曲げ、しゃがむきっかけをつくる支援をする。 ・ リラックスする時間ではセラピーマットの上まで手を引き、寝転がることを促す。A 児の隣に寝転がり、優しく肩をたたく。
・ 終わりの歌	・ 自力では起き上がらず、寝転んだまま姿勢を正さない。	・ A 児の頭側に回り込み、歌に合わせて腕を伸ばすストレッチをする。その後優しく背中を押し上げることで、起き上がるきっかけをつくる。

・ 終わりの挨拶	・ 教師に寄りかかったり、マットの上に寝転がったりする。	・ 寄りかかれない適度な距離にS Tが座り、寝転がりそうな様子があれば「挨拶をしたら終わりだよ。」と見通しがもてる言葉かけをしたり、軽く背中を押ししたりする。
----------	------------------------------	---

○展開

時配	活動内容と教師の支援	該当児童
1 分	○ 始めの挨拶 ・ 椅子に座り、挨拶と出席確認をする。 ・ 呼名をし、返事やハイタッチを通して集団の一部であることが意識できるようにする。	
1 分	○ 手遊び歌 ・ 「パンダうさぎコアラ」の歌を歌いながら、手遊びをする。 ・ パンダ・うさぎの部分では児童の頭付近で目や耳をつくったり、コアラの部分で優しく抱きしめたりして、楽しくふれあう場面をつくる。	
15 分	○ いろいろな動物にへんしん！ ・ 動物の写真と、動きを表す擬音の単語カードを示し、手本を示しながら紹介する。 （ぞう→どしーん、うさぎ→ぴよんぴよん、くま→のしのし など） ・ 椅子を片付け、リトミックに取り組む。 ・ 動物ごとに異なる曲を用意し、曲が切り替わる際に「次は〇〇だよ。」と動物の名前を伝えながら手本を示す。説明の際確認した「ぴよんぴよん。」「どしーん。」といった擬音を言葉かけの中に入れる。 ・ 一人では難しい動きがある場合は、手を取ってそばで手本を示したり、姿勢を作る手助けをしたりする。 ・ ナマケモノの曲が流れたときは、セラピーマットを敷き電気を消すことで、リラックスできる空間をつくる。リラックスすることが難しい児童の隣に寝転がり、肩やおなかをトントンと優しくたたき、落ち着けるようにする。	
2 分	○ 終わりの歌 ・ 「1, 2, 3でおはよう」の曲に合わせて手を伸ばしたり、起き上がったりする。 ・ 歌詞の「手を叩こう」を「手を伸ばそう」「おやまつくろう」にして、寝転がった状態から段階的に起き上がり、挨拶をする姿勢になれるようにする。	
1 分	○ 終わりの挨拶 ・ 本日の振り返りと次時の確認を行う。 ・ 挨拶を行う。	

○児童の授業に取り組む様子

A 児	・ 初めは室内を好きなように動き回ることが多かったが、繰り返し取り組む中でやることがわかり、集団と共に決まった方向に歩いたり四つ這いをしたりすることができた。また、室内を暗くして横になりリラックスをする時間では、自ら電気を消す姿も見られた。
-----	--

グループ全体の反省・課題 等

○A 児が好む身体を動かす活動を取り入れることで、能動的に活動に参加することができた。

○少ない支援で時間いっぱい集団と共に活動するためには、より簡単かつ少ない種類の動きに繰り返し取り組み、「できた」という経験を増やせるとよい。